

エキノプシス交配種

Hybrid Echinopsis



古くから美しい花を目的としたサボテンの作出が行なわれ、旧エキノプシス属、旧ロビビア属、旧カマエケレウス属等を親にして、多くの花サボテン交配種が作出されました。花色鮮やかですがやや気難しさのある高地性の性質をもった旧ロビビア属のサボテンと、花色は地味ですが、花が大きく多花性、性質も強健な旧エキノプシス属のサボテンとの交配により誕生しました。このため、両方の優れた部分を得て、花は色鮮やかで美しく、性質も強健で栽培しやすいという特徴を持ちます。(その他の属のサボテンの血統が入っている場合もあります。)

旧来「ロビビオプシス」等の属名称が使用されていましたが、現在では、分類学上、旧エキノプシス属、旧ロビビア属、旧カマエケレウス属等は、新エキノプシス属に大統合されていますので、「エキノプシス交配種」と呼びます。

エキノプシス交配種は、育てやすく非常に強健ではありますが、**そもそも花を観賞するものですので、花をよりよく咲かせるための栽培に心がけなければなりません。**ただ生かすだけであれば、かなりの栽培でも問題はありませんが、それでは、**エキノプシス交配種を育てる意味がありません。**

エキノプシス交配種は、栽培環境、栽培方法、時期により花の形状や色合いに変化があります。また、株が若く小さい頃は、その品種の花の特徴やサイズが十分出ません。

■エキノプシス交配種の区分

エキノプシス交配種は、様々な形状のサボテンを包括する、新エキノプシス属内の交配種です。当店では、園芸的な観点から3つのグループに分けています。

エキノプシス交配種

玉型の旧エキノプシス属、旧ロビビア属などをベースにした交配種で、小型のものでは本体は直径10cm未満から大きいものでは直径20cm未満、高さも直径と同じ程度から、古い大株では数十cmになることがあります。

大型エキノプシス交配種

新エキノプシス属に統合された旧トリコケレウス属のテレゴナ、フラスチャ等の血統が入ったもので、高さ50cmあるいはそれ以上の柱状、株立ちになる交配種です。「花の美しい中型柱サボテン」と言えるでしょう。とてもゴージャスで海外では人気がありますが、スペースのあまりない日本では人気は今一つです。

カマエ系交配種

旧カマエケレウス種(白檀)の血統がはいったもので、本体の直径は数cm、ころころと仔吹きして群花します。

■健康的に育て美しく咲かせるためのポイント

ここでは、エキノプシス交配種を健康的に育て美しく咲かせるためのポイントを整理しました。



○最も重要なポイントは日光です

美しい花を咲かせるために最も重要なポイントは、十分な日光に当てることです。冬季休眠期であれば、室内の明るいところで管理しても問題はありますが、春、夏、秋の成長期は、室内での栽培では日光が不足します。また、蒸暑さを嫌うものもあり、成長期は、風通しのよい屋外の直射日光の下で健康的に育ててください。(室内から急に屋外に出すと日焼けを起こす場合がありますのでご注意ください。)

○用土は肥沃で有機物を含んだものを使用してください

一般的に市販されているサボテン・多肉植物の専用培養土は、肥料分がほとんどなく排水がよすぎるため、使用すると育ちも悪く、花付きもあまりよくありません。赤玉土や腐葉土を多く混合した用土を使用するとよいでしょう。場合によっては、通常の草花用の培養土の方がいい場合があります。

根の発達が非常によいものが多いので、植替えを何年もしないでいると、根詰まりを起こして、成長が阻害されたり、花付きが悪くなります。鉢の状況にもよりますが、毎年の植替えまでは必要ありませんが、根詰まりを起こす前に植え替えてください。

○冬季は5℃以下の寒さに当てて休眠させてください

ある程度耐寒性はあります。冬季に暖かくしすぎるとだらだらと成長し、徒長したり花付きが悪くなります。冬季は、0℃～5℃程度の寒さに当てて、灌水を控えて、ゆっくりと休眠させるとよいでしょう。

○灌水は文字どおり頭から

成長期には盛んに成長しますので灌水の頻度も増えると思いますが、成長期の灌水は植物の頭から掛けてください。体の砂埃が落ちますし、ハダニの発生も少なくなり、健康的に育ちます。

○交配品種は札が命です

エキノプシス交配種に限らず、どんな植物の交配品種も「札(品種名)」が命です。札落ち(品種名が分からなくなる)が起きると価値がなくなり、すぐれた品種も散逸してしまう可能性があります。札落ちさせないようにしてください。